

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 平岸 ぼぷら		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 7 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をどのような形で実践に繋げていくのか、日々模索しながらそれに見合う体制作りを検討している。毎月目標も設定し全職員が理念に結びつく取り組みが出来るようきっかけ作りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事参加や運営推進委員会等連携は深まっている。子供みこしの祭りには、休憩所として駐車場を開放し気軽に話せる関係を構築している。徐々に地域との距離は縮まっているが日常的な交流には至っておらず今後より一層の努力が必要と感じる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏の花火大会や冬のナイトキャンドルなど行い地域の方々の参加を募って利用者様と一緒に交流しながら認知症の理解を深めて頂けるよう取組んでいる。また避難訓練などの際にも普段の職員の支援など見て頂くきっかけ作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案等があった場合は、その内容を本社及び現場で十分検討し可能な限り取り組みに盛り込むよう努めている。提案があった経緯なども全職員が分かるよう会議の議事録を作り管理者が配布している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、札幌市の管理者会議や区の連絡会に積極的に参加しサービスの向上に努めている。今後は管理者だけでなく他の職員が管理者会議、連絡会に参加できるように考えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない理由や、その為に職員が注意すべき事等は理解している。今後も身体拘束のないケアを実践していくが、土地柄上安全確保を優先し、やむを得ず電子錠はかけている。その事は家族様にも理解を得ている。ただリスク管理し易い時間帯に開錠する等徐々に自由な環境下を作る努力していく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が法について理解している。今迄に虐待の事実はなく、ホームでの安心した生活支援を行えている。ただ虐待はほんの些細な事、その気ではなかったという所から始まるものである。常に危機感を持ち今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に制度を活用している利用者様がおられる際は学ぶ機会があったが、現在は利用している方がおらず職員も入れ替わりがあり把握し活用できるまでには至っていない。今後は様々な生活スタイルの方が増えていくと予想されるので勉強会を設けるなど学んでいく取り組みをしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や御家族様にご理解、ご納得して頂くように十分な説明を行っている。法改正が3年ごとにあるので今後ともインフォームドコンセントを常に意識して取り組んでいく。ただ契約事項を忘れてしまうご家族も少なからずおられるので状況に応じてその都度ご説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が、面会時や定期的な連絡など苦情を受け付ける事ができている。利用者様、御家族様と常に相談や意見、要望を聞き入れ苦情にもすぐに改善、対応できる体制にしている。相談・苦情申し立てのための第三機関があることもユニットに掲示している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関わる職員の意見の反映については、毎月定期的に本部がホームに入り各種会議の際、及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、個別の実績、勤務状況について本部で評価を行い、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の内部研修を開き、質の向上に努めている。また、外部の研修等にも積極的に参加して職員一人ひとりのスキルアップに努めている。勤務時間中にも利用者本位の支援のあり方や業務が円滑に行われるようリーダー、管理者が各職員に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部内による、月1回の合同会議で各ホームの情報交換を行っている。また以前まではホーム間での交流行事を盛り込んで相互のサービスのあり方など学ぶ機会があったが入居者の高齢化により移動の負担もあって今現在は難しい状況となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様からの何気ない言動・声掛けに対するの返答などを引き出し、それを基に職員間で周知し共有しながら安心を確保するための関係作りの解決策を導き出している。職員と御本人様との距離が離れないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	皆の前では不安に感じている事を打ち明ける事ができない御家族様もいらっしゃるのでは、個別で話し合いの場を設け関係性の構築に努めている。今後お互いにとってよりよい信頼関係が築けるようにしていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「何が必要か、ホームに何を求めているのか」を明確にし支援出来るよう初回プランには必ず情報収集を盛り込んでいる。また御本人・御家族にグループホームが自立支援の場であるとの理解を深めて頂けるよう努め、それらの理解を基に優先的な支援について聞き取りを行い納得した形で開始をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の話を傾聴しながら共に家事やレク等を行う事で勉強になったり支え合う関係を築いている。また職員や他利用者様との関わりが増える事で支え合う関係性が見えているため今後も全員で何かを共有する有意義な時間を提供していく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にはこまめに近況報告を行いホーム側からも相談出来る関係が出来ている。ただ利用者様の入れ替わりが多い時期は御家族と御本人の関係性はどの程度なのか把握しきれない方もおられる。今後もこまめに連絡を取り合い、独自で行っている写真付き葉書を出し家族間との絆を築けるよう努める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所は行事として盛り込んだり、人に対しては電話したりする事で今までの関係が途切れないようきっかけ作りをしている。また、まだ埋もれている馴染みの人や場所がないか御本人や御家族にその都度聞き取りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり性格が違う為その人によってアプローチの仕方を考えて対応している。また職員が仲介役になることで関係性の程度が把握でき、今まで以上に関係が発展したケースもある。引き続きバランスをとりながらその人に見合った対応を心がけていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も御家族様から電話連絡が来たりお手紙が届くなど関係が築けている。必要に応じて家族様のお宅に訪問しご相談に乗ることもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り御本人様の希望、意向を重要視し生活を支援している。表現する事が困難な方には、バックグラウンドや御家族様の情報を基に選び易い選択肢を設けたり、表情・反応を見て把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し御本人様にとっての馴染みある生活を出来る限り提供する事に努めているが、実情は巧くいかないケースもある。情報不足の方もいる為、引き続き生活の中で引き出せるように努めていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調変化を確認しその都度記録に残すことで変化の有無を見極めている。また既往歴にも目を向けるなど多角的な視点をもって総合的に把握できるように取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりが意見を出し合い利用者様にとって何が良いか常に考えている。また御家族様からの意見も積極的に取り入れ、職員目線だけではない取り組みにも支援として結び付けることが出来ている。医療面からの指導も基に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに記載されている事だけではなく様々な観点から利用者様の状態を残す記録を目指している。また結果だけではなくその根拠となる原因も細かく把握した上で、この件に関してどうすべきか皆で話し合い実践に結び付ける努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対してのサービスが受けられるように御本人や御家族に情報提供と相談助言を行っている。既存サービスでは対応出来ない部分についても家族様の協力を仰いだり手の空いているスタッフやボランティアを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に地域に根ざしている実感はあり、地域の方からの呼掛けやボランティア側からのお誘いで円滑な交流が行なわれていると感じる。今後はお誘いを受けるばかりではなく入居者様が主体となり社会資源に結び付けられる取り組みが出来るよう努力していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医だけでなく訪問看護、歯科や皮膚科など多岐に渡り総合的な身体管理の把握をしている。急変時の受診にも主治医に報告し状態把握に努めている。希望にも極力大切にしているが困難な場合はその都度話し合い、納得できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師に適切な助言を頂けるように事前に情報をFAXしている。看護師との関係性も構築できている。聞きやすい環境が出来ている。医療面からの情報を基に必要な受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこまめにお見舞いをして担当医師やワーカーと話し合い相談するようにしている。担当医師とよく相談の上、早期退院の方向で話し合いを行っているが、御本人様の心身状態をかえりみず早期退院させることのないようにしっかり退院後の状態を相談することに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護ステーションを含め話し合いのもと御本人の意思・御家族の希望を出来る限り尊重し、ホームとしてできる事を行っている。御本人様にとって一番どうする事が良いのか、エッソー丸となり何度も話し合いを行い出来る限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前の急変や事故についてはどう対応すべきか徐々にではあるが身に付いてきている段階。ただ職員の入れ替わりもあり把握しきれていない部分も多い。過去の事故や急変の資料を振り返ったり研修など活用しながら全員が対応出来るよう努めていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練しているため徐々に身につけてきている感覚はある。ただ職員の入れ替わりもあって経験の浅い職員もいるので適切・迅速な対応が出来るように各分野の専門からの助言ももらいながら向上に努めていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ぼぶらの目標である「生きがいを引き出す」を軸に利用者様の生きがいは何なのか、スタッフ間で情報を共有しながら毎日笑顔で活気のある生活を送って頂けるよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り希望実現に努めている。ご自身の意思を表せられない方も今までのホームの暮らしや昔の情報を基に柔軟に対応できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの情報をスタッフ間で共有し利用者様主体で昼夜のリズム・体調面など観察し、その時に見合った希望の生活を送る事が出来るようにしている。ただ共同生活の場でもあるので必要最低限の倫理観・規律も考慮しながら各々の生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の活用・御本人と買い物に出るなど希望に沿った取り組みが出来ている。着替えの際にも数点の衣類を用意し選んで頂くなど可能な限り利用者様主体の支援を行っている。女性だけでなく男性にも顔剃りや髪をセットするなど配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は混乱するケースが多く、中々継続的に行う事は難しいが下拵えの段階等で、一緒に行う事を軸に目指している。下膳に関しては声掛けと見守りを軸に全員ではないが出来ている。食器拭き等は自発的に台所に来る方もおり浸透している様子が窺える。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時に多くの水分摂取を図っている事で安定した1日のトータルの水分確保が出来ている。食事に関しても一人一人の量や食事形態、食器の工夫など記載した各自のプレートを作成しているため利用者様の状況に合わせたサービスが提供できるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後、口腔衛生支援している。自らブラッシングし、足りない部分はフロッシングの介助なども行い清潔を保っている。義歯の手入れも保清が出来ているか汚れを確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で失敗しないようトイレのお誘いをしている。他にもソワソワされた時点で事前にさりげなく促している。声のかけ方などにも十分配慮し一人ひとりに見合ったアプローチをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り薬には頼らず乳製品など食改善で対応したり、起床時に水分を多めに摂って頂いたりしている。また整骨院との連携で便秘改善に向けた療法を取り入れたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務的な入浴にはならないようにゆったりとした雰囲気作りを心掛けている。一応ある程度の目安が必要なため曜日や人数を決めているが希望があったり拒否されたり一人一人の入浴の楽しみ方や価値観も違う為、常に状況に応じた対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や過去の生活を考慮した対応を行いながら日中起きて夜眠れるメリハリのある生活を作って頂けるように心掛けている。休息についてもソファや居室で休んで頂く等、個々の好きなスタイルを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を利用者様一人ひとりファイルに綴じ、留意点など内容が分かるように工夫している。誤薬を防ぐ為に予薬時間ごとに薬を振り分け、セッティングする職員と予薬する職員とを分けて2重、3重のチェック体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の要望も多く取り入れて行事に盛り込むなど実現に取り組んでいる。また利用者様一人ひとりが楽しめるように御本人・御家族から聞いた情報やセンター方式を参考にしながら役割や楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低い方に対しても本社のリフト車を借りたり、介護タクシーを活用するなど積極的に希望の場所へ行けるよう対応している。また御家族様にも協力を仰ぎ希望実現に向けて一緒に同行できるかアプローチするなどしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かけた際には御本人様に金銭をお渡しし自身で支払をして頂く等の対応はできるが、現状ではご自分でお金を持ってレジで支払うことが難しい方が大半な為、職員管理がほとんどである。今後見守りのもと行えるか確認していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自ら要望される方はいないが必要に応じて手紙や電話などいつでもできるよう支援している。また要望がなくても寂しそうな表情、困っている様子が見られた時は職員から連絡を促している。手紙については親類の方から送られてくる方もおられるのでその場合は読み聞かせの対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月行事写真や日常風景を差し替え適度な刺激を与えられるように取り組んでいる。また大きな音や声、湿度、光の度合いなど環境面にも気配りをし、各部屋に温湿度計を設置したり加湿器を導入したり換気を行ったりしている。特に職員の声のトーンには注意し合っていこうと意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下、事務所と場所場所にソファーやテーブルを設置しており自由に使っている。各自それぞれのお気に入りの場所やソファを利用している。限られた場所ではあるがプライベートな空間として意識されている。仲の良い利用者様同士と一緒に洗濯物をたたむ光景は毎日見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活スタイルや好みに合わせて使い慣れた家具や思い出の写真、お気に入りのソファなど導入している。また居心地が良いようにホームに入る前の居室と同じ家具の位置にしたりよく使う動線の近くに家具を集中させるなど配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗があった場合、まずご自身で考える時間を持っていただいた上で解決出来ない場合さりげなくフォローしている。またわかりやすい環境(使わないものや混乱を招くものは視覚に入らない工夫を施すなど)を整備する努力をしている。		